

# 第6回サステナブル社会を支える 包装革命シンポジウム

— 違法伐採木材製品規制と次世代期待の包装技術展望も含めて —

- 開催日：平成25年3月12日(火)
- 会場：TFTビル908号室
- 主催：公益社団法人日本包装技術協会

## 開催にあたって

日本は今、東日本大震災からの復興という大きな課題に直面する中で、経済再生への取組みが産官民一体となって始まろうとしております。包装産業においても、社会に調和した包装の実現に向けた新しい挑戦が始まっており、新技術やより高度な技術の開発が企業の責任として、また社会への大きな命題として早急に取り組んでいかねばならない課題となっています。

第6回目となります本シンポジウムでは、サステナブル社会を構築し、支えていくために包装分野では、現在どのような技術の開発が進み、今後どのような技術の開発が期待されているのか等に焦点を当て、皆様と共に考えてみたいと思います。特に今回は、森林伐採に関わる諸問題にまで踏み込み、関係者の方々から情報提供頂きます。

本シンポジウムの大きな特徴は、常に包装分野の専門家だけでなく、包装を取巻くいろいろな分野からの専門の方々をお迎えし、お話をうかがうことにあります。この機に、包装を取巻く環境の変化につきまして一層の認識を深めていただく共に、これからの包装分野における新しい技術やより高度な技術の開発への一助となっただけであれば幸いです。

## 講演者・パネリストの紹介

### ●住本 充弘 氏

住本技術士事務所 所長  
2004年1月 大日本印刷(株)を定年退職し、以後コンサルタント活動に入る。世界の包装展視察や世界の企業の包装コンサルタント活動や国内企業のコンサルタント活動を続けている。日本技術士会会員、技術士包装物流グループ会員、日本包装学会会員、日本包装コンサルタント協会会員、日本包装管理士会会員  
技術士(経営工学)、包装管理士、業界誌に執筆多数

### ●岩崎 誠 氏

MIPコンサルタント事務所 所長  
1973年 東京工業大学大学院(修士：高分子工学専攻)卒業  
同年 王子製紙(株)に入社。パルプ現場での三交代、研究技術部を経て、78年に同社研究所(東京)に異動し、定年までパルプ化、漂白、環境改善の研究開発に従事。その間2年間(79年～81年)スウェーデンの王立工科大学(KTH)に留学  
著書：『早世樹』(海青社2012)、『セルロースのおもしろ科学とびっくり活用』(講談社2012)

### ●後藤 敏彦 氏(企画委員)

NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事  
1964年 東京大学 法学部 卒業  
環境監査研究会代表幹事、サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク(NSC)代表幹事、社会的責任投資フォーラム会長、グローバル・コンパクト・ボード・ジャパンメンバー、JCSD共同議長、拓殖大学客員教授、東京経済大学現代法学部非常勤講師、環境経営学会(理事)、地球システム・倫理学会(常任理事)、環境管理規格審議委員会・EPE小委員会委員・14005WG委員、日本環境経営大賞審査委員 等  
著書：『サステナビリティと本質的CSR』(2009、共著監修三和書籍)、『環境 持続可能な経済システム』(2010、共著、勁草書房) 等

### ●佐藤 潤一 氏

一般社団法人グリーンピース・ジャパン 事務局長  
国際環境NGOグリーンピース・ジャパンの事務局長。世界40カ国以上で活動するグリーンピース支部の中で、最年少の事務局長として2011年12月より現職。企業の本業を通じた環境保護を訴え続け、アルミ生産企業から出る残渣の海洋投棄全廃、ペットボトル入りビールの販売見直しなどを実現。2013年1月には、ユニクロを展開するファーストリテイリング社とグリーンピース間で2020年までに有害化学物質の使用を全廃するという合意も実現している。訳書に「ゴミポリシー」(築地書館)

### ●伊藤 豊 氏

(株)王子パッケージイノベーションセンター  
企画開発本部 開発推進部 部長  
1960年 東京神田生まれ  
1986年 R.I.Tロチェスター工科大学 応用化学学部  
パッケージ学科卒業  
1986年 本州製紙(株)入社 紙器加工事業本部  
王子製紙(株)(新王子製紙との合併により)  
王子パッケージング(株) 営業本部  
2008年 王子チヨダコンテナ(株) 営業本部 担当部長  
2010年 王子製紙(株) パッケージイノベーションセンター  
プロジェクト推進グループ長  
2012年 現職

### ●小林 光 氏

大塚食品(株) 開発技術本部 食品技術部 部長補佐  
1984年 大塚化学(株) 食品研究室 入所  
「アルキメンデス」「マイクロ波による加圧加熱殺菌食品『あ!あれたべよ!』」などの製品開発に従事。大塚食品(株)鳴門工場、滋賀工場の工場長を経て現職  
技術士(経営工学部門)

### ●長谷川 浩 氏(企画委員)

大日本印刷(株) 環境安全部 シニアエキスパート  
1975年 大日本印刷(株)入社、中央研究所包装部門、包装研究所、包装総合開発センター等の勤務を通じて、一貫して包装材料、包装システムの開発業務に従事。  
1996年 環境包材対策室 室長 容器包装リサイクル法の制定を機に移籍し、包装事業分野の環境、安全・安心、製品安全(PL)関連全般の業務に従事し、現在に至る

### ●有田 俊雄 氏(企画委員)

(株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長  
1956年 東京大学工学部応用化学科卒業  
日本パルプ工業(株)(現王子製紙(株))、ダイヤパッケージング(株)(現三菱商事パッケージング(株))を経て、1997年～ パッケージング・ストラテジー日本代表  
2007年4月 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパンを設立、取締役社長  
技術士・包装管理士 2005年「米国包装功労賞(包装殿堂)」受賞  
著書：「包装“国際化”宣言」日報(2000)、  
〔共著〕“Japan Packaging Innovations: Technology and Industry Report”(英文: Packaging Strategies, 2005)  
〔定期刊行物〕Packaging Strategies Newsletter(日本語版)

# プログラム

時 間	テ ー マ	講 演 者
10:00   11:00	<p>①『2020年に実現が期待される新技術の展望(今どこに)』</p> <p>“2020年に実現が期待される新技術”について、2004年からの活動を通じて国内外から得た情報を基に“期待される新技術と何故かの背景技術”を2020年の社会を想定し、豊富な具体的な事例で背景技術を紹介し、期待されるパッケージ技術を以下の内容で提案。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2020年に期待されるパルプ、セルロース技術の概要</li> <li>2. 2020年に期待されるナノテクノロジー技術の概要</li> <li>3. 2020年に期待される包装加工技術の概要</li> <li>4. 2020年に期待される新しいパッケージ形態技術の概要</li> <li>5. 2020年に期待される食品包装技術の概要</li> <li>6. 2020年に期待される医薬品包装技術の概要</li> <li>7. 2020年に期待されるグラフィックデザイン技術の概要</li> <li>8. そのバイオポリマー、規制、ロジスティック等</li> </ol> <p>今回の素案を基に多くの専門家が更に討議を重ねて、2020年に期待される新技術を展望して頂き、その結果を実現されることを期待して説明します。</p>	<p>住本技術士事務所 所長</p> <p>住本 充弘 氏</p>
11:10   12:10	<p>②『紙パルプ由来の新しい包装技術トレンド』</p> <p>わが国では、紙(板紙も含む)の生産量が減少しており、将来は木材や非木材も含めたバイオマスから、それを構成する各成分(セルロース、ヘミセルロース、リグニン)を分離あるいは抽出し、それを利用するバイオリファイニングに進むものと考えられる。</p> <p>そこで、この講演では、①紙パルプの生産量やプロセスなどについて、②木材の構成と構成成分(セルロース、ヘミセルロース、リグニン)と現状の利用状況、③今後増加するものと予想される非木材を含めたバイオマスの新規な利用法、特に包装材料(食品保存性向上など)への利用、について紹介する。</p>	<p>MIPコンサルタント事務所 代表</p> <p>岩崎 誠 氏</p>
12:50   13:40	<p>③「拡大生産者責任及びバリューチェーンマネジメント」 ～欧米の違法伐採木材製品規制(含む、紙)の影響についても～</p> <p>拡大生産者責任というのは、元々はOECDのPPP(Polluter pays principle)から来ており、基本的には廃棄段階に対する考え方であった。それがIPP(Integrated products policy)ということに深化し、製品の設計段階からの考え方に進んでいった。グローバリゼーションの進展とともに、下流側への配慮だけでなく、むしろ上流側への配慮、即ちサプライ・チェーン・マネジメント(SCM)の重要性が言われるようになってきた。これがISO26000の発行とともに世界的には顕著になってきており、全体としてバリューチェーンの取り組みの重要性が明らかになってきた。このあたりを、包装材の素材として重要な「紙」の規制である違法伐採木材製品規制の問題として情報提供し、皆さんと対応を考えたい。</p>	<p>NPO法人サステナビリティ 日本フォーラム 代表理事</p> <p>後藤 敏彦 氏</p>

時 間	テ ー マ	講 演 者
13:50   14:30	<p>④『グリーンピースの森林保護キャンペーンとその戦略』</p> <p>グリーンピースは、森林保護キャンペーンを世界的に展開してきている。特にインドネシア・ブラジル・コンゴにおける原生林保護に力を入れており、多数の企業にサプライチェーン全体における調達方針変更を促してきた。例えば、世界最大の某食品・飲料会社がインドネシアの熱帯林を破壊して作られるパーム油の使用を中止し、持続可能な原料に切り替えることに合意。また包装材としては、某米国玩具メーカーや、某国際的食品企業が、熱帯雨林伐採に関連する企業との取引を中止している。国際環境NGOの企業キャンペーンとは何か、熱帯雨林伐採に関係する資材を避けるためにはどうすべきかを考える。</p>	<p>一般社団法人 グリーンピース・ジャパン 事務局長</p> <p>佐藤 潤一 氏</p>
14:40   17:00	<p><b>パネルディスカッション</b> (14:40~17:00)</p> <p>『新包装技術および新規規制の両面から今後の包装を展望する』</p> <p>包装は時代とともに変化し、進化し続ける。包装を変化させる外部要因は、社会・経済、消費者・ライフスタイル、小売業と様々だが、包装それ自体の進化の基本は「包装の技術革新」にあり、それに伴う「価値の創造」にある。今後想定される様々な規制とともに「近い将来実現が期待される次世代包装先端技術は、今どこに？」を取り上げ、会場とともに議論したい。</p> <p>●事前発表</p> <p>①『サプライチェーン最適化が導く包装革命』(14:40~15:00)</p> <p>発表者：株式会社王子イノベーションセンター 企画開発本部 開発推進部 部長 伊藤 豊 氏</p> <p>サステナブル社会の基本は、「人と人のつながり」を大切にすることである。物づくり観点からすると、これは原料調達、製造、加工、流通、消費、廃棄物回収に至るサプライチェーンを見渡し、各過程の問題を解決しつつ、全体最適化を図ることに他ならない。王子グループにおいても、この考え方のもとにパッケージ分野の取組みを進めている。原料面では間伐材・森林認証材の利用拡大、リニューアブルな新素材・新機能材の開発が課題である。製造面ではCO<sub>2</sub>の削減や軽く・強く・美しい「軽量コートライナ」の開発を推進している。流通面では通販等の拡大に伴い、印刷・包装のオンデマンド技術の確立を目指している。これらが包装革命へとつながる。</p> <p>②『加工食品進化論 超高齢化社会を見据えて』(15:00~15:20)</p> <p>発表者：大塚食品株式会社 開発技術本部 食品技術部 部長補佐 小林 光 氏</p> <p>1956年の経済白書に「もはや戦後ではない」と記載されて以来、日本は新たな発展を遂げてきた。それに伴い社会も大きく変化している。小売業では、百貨店やスーパーマーケットの売り上げが伸び悩む一方、CVSや通販は大きく躍進し、販売チャンネルが変化している。人口問題では高齢者の人口に占める割合が増加し、2055年には40%を高齢者が占めると予測されている。それに伴い、高齢者単身世帯の増加、「買い物難民」の問題、また若者には使いやすい商品が高齢者では使えない等の問題、超高齢化社会を迎え食品・容器廃棄物等の環境問題など食品市場を取り巻く環境は大きく変化している。サステナブル社会を見据え総合的に進化を捉えていきたい。</p> <p>●討議</p> <p>【司 会】</p> <p>■株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長 有田 俊雄 氏(企画委員)</p> <p>【パネリスト】</p> <p>①株式会社 王子パッケージイノベーションセンター 企画開発本部開発推進部 部長 伊藤 豊 氏</p> <p>②大塚食品株式会社 開発技術本部 食品技術部 部長補佐 小林 光 氏</p> <p>③大日本印刷株式会社 環境安全部 シニアエキスパート 長谷川 浩 氏(企画委員)</p> <p>④NPO法人サステナビリティ日本フォーラム代表 理事 後藤 敏彦 氏(企画委員)</p>	

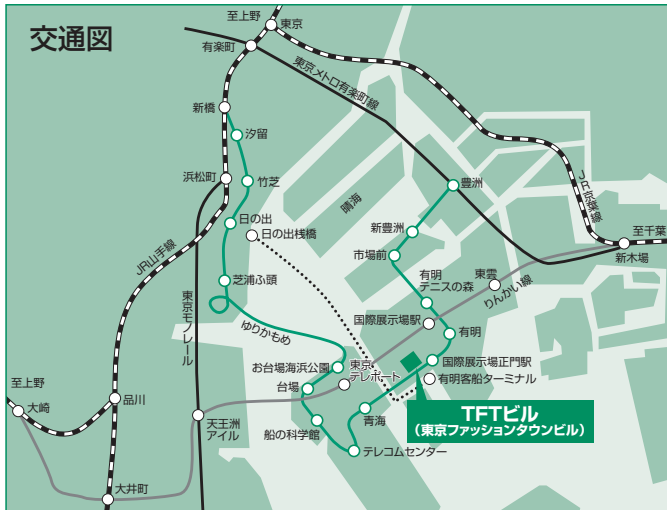
## 企画委員

本シンポジウムは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。

- 後藤 敏彦 氏 NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 (その他NPO代表 委員多数)
- 有田 俊雄 氏 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長
- 長谷川 浩 氏 大日本印刷(株) 環境安全部 シニアエキスパート

## 開催要領

- 日時：平成25年3月12日(火) 10:00~17:00
- 会場：TFTビル 908研修室  
東京都江東区有明3-6-11  
TFTビル東館9階
- 定員：80名
- 参加費：会員 19,950円(消費税5%、テキスト代含む)  
一般 26,250円(消費税5%、テキスト代含む)



- ゆりかもめ「国際展示場正門駅」からブリッジで直結徒歩1分
- りんかい線「国際展示場駅」から徒歩5分

## 申し込み方法

- 本紙申込書に必要項目を全て記入の上、FAXにてお申込みください  
協会HPからのお申込みも出来ます。  
協会HP：<http://www.jpi.or.jp>
- 申込みされた方には後日参加証と請求書をお送りします。
- 開催1週間前からの参加費の払い戻しは致しません。  
申込みされた方がご都合の悪い場合、代理の方の出席は差し支えありません。(当日、名刺をご提出いただきます)

### お問合せ並びにお申込み先

公益社団法人日本包装技術協会  
サステナブル社会を支える  
包装革命シンポジウム係 担当：竹内  
〒104-0045  
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F  
TEL:03(3543)1189/FAX:03(3543)8970  
e-mail: takeuchi@jpi.or.jp

#### 【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「サステナブル社会を支える包装革命シンポジウム」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

## 第6回サステナブル社会を支える包装革命シンポジウム参加申込書

公益社団法人日本包装技術協会 竹内 行 FAX. 03-3543-8970 No. \_\_\_\_\_

会社名					
所在地	(〒 )				
電話				FAX	
参加者	氏名		所属 役職		e-mail
	氏名		所属 役職		e-mail
	氏名		所属 役職		e-mail